



第 15 号  
2024 年  
9 月 22 日

## 2024 夏の中高生世代キャンプ

「一緒にいるからできること」

東京教区中高生世代キャンプチャプレン

執事 藤田 誠

8月19日(月)から22日(木)にかけて、日本バプトルホーム(群馬県利根郡みなかみ町)で中高生世代キャンプが行われました。今年には18名のキャンパーと5名のスタッフ、そしてチャプレン2名萩原充司祭と藤田誠執事の人数構成での開催となりました。

コロナウィルス感染症の懸念が少なくはじめた2022年、3年ぶりに対面でのキャンプが実施されました。このときに与えられたキャンパーは4名、そして同感染症が5類感染症へ移行した2023年のキャンプではキャンパーが13名でした。このように徐々に参加者が増えている状況を見ると、ここ数年に行われた対面でのキャンプは、キャンパー同士の繋がりを深めているのだろうと思います。そして、実際キャンプ中、過去2年間参加しているキャンパーたちが、初参加の

キャンパーたちも楽しめるように声をかけ、一緒に遊んでいる様子を見ると、その思いは確かな事実として私の心のうちに深く残りました。

また、キャンプスタッフが長い時間かけて考えたキャンプの内容は、施設内外でのレクリエーション、聖書の分かち合い、テーマを深めるための分かち合い、朝夕、就寝前の礼拝において、キャンプのテーマである「一緒にいるからできること」を感じる機会となりました。

キャンパーがそれぞれ自分自身のことを見つめて、そのことを隠さずに素直に仲間に表示している様子をしばしば見ました。キャンプが終わり東京に戻ってからこのことを考えたとき、祈禱書において朝夕の礼拝の最初に用いる聖語の中の一つに「二人または三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)という言葉を思い出しました。私たちは礼拝においてありのままの自分を神さまの前に差し出すことができます。それゆえに、ありのままの自分をキャンプで差し出していたキャンパーたちは、その交わりの中で、神さまの存在を感じるようになったのではないかと思います。主に感謝します。

## 教会訪問記

東京教区

聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂

清瀬聖母教会

巡礼チーム アシスタントスタッフ

オリビア 中谷 萌

9月7日、15回目となる巡礼企画が開催されました。

国立療養所多摩全生園内の国立ハンセン病資料館、東京教区の聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂(東村山市)と清瀬聖母教会(清瀬市)を訪問しました。信徒・教役者など過去最多の約60名が恵まれた時間を過ごしました。

国立ハンセン病資料館では、ハンセン病者に対する差別の歴史、病者やその家族、回復者の方が置かれた厳しい状況を知り、私は愕然としました。聖公会の教会がある草津の栗生楽泉園やリー宣教師に関する展示もありました。

園内には入所者のための宗教施設が集まっております。聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂もそのうちの一つです。道中には、納骨堂や強制墮胎の犠牲となった胎児のための記念碑があり、誤った国策の下で虐げられた方々を覚えて黙祷しました。畳敷きであった礼拝堂では、現在では信徒の高齢化のために主日礼拝を休止しており、大森明彦司祭は病棟への訪問に励んでおられます。他方で、同礼拝

堂の信徒を教父母に持つ園外の信徒が多くおられることも伺いました。

清瀬聖母教会は、思わず深呼吸をしたくなる緑豊かな場で、素敵なガーデンがありました。大きな聖堂は24時間祈りの場として開放されており、病院が立ち並ぶ地域における教会の宣教の在り方に感銘を受けました。信徒の皆様の温かなおもてなしや大森司祭のユーモアあふれる語り口、地元の素晴らしい果物などが心に残りました。聖堂で共に夕の礼拝を献げ、宣教協働の働きや多くの方を覚えて代祷をしました。

巡礼企画は教会とその地域に関する学びと素敵な出会いの場であると思います。宣教協働への身近な取り組みとして、ご一緒できる口を楽しみにしております。

### ★次回巡礼企画のご案内★

#### 水戸聖ステパノ教会

日時：11月30日(土)11時～15時  
費用：昼食は各自持参。自由献金あり。  
見どころ：戦災・東日本大震災を経た教会の歴史解説、併設の愛恩幼稚園の働き、歴史ある水戸の街散策  
申し込み：11月24日(日) 締切  
junreiteam@googlegroups.co まで。

巡礼チームブログは右のQRコードからご覧ください！



## 北関東・東京教区

### 「新教区設立への道」の現在地

宣教協働特別委員会 司祭 斎藤徹

両教区は新教区設立を目指しており、そのために「教会巡礼」、大根の種まきと収穫、巡礼スタンブ帳発行、教区プログラムを広く呼びかけるなど出会いを重ねるプログラムを実施してきました。また、ふたつの教区をひとつにするため、様々な協議を重ねてきました。

現在は「ひとつの教区になったらどうなるか」というシミュレーションから、「どのようにつとをつとにするか」という具体的準備作業が始められています。

組織的な準備として、既存の活動を整理しながら、新教区の宣教体制のありようを含めた組織図草案作成、日本聖公会法規、宗教法法人法に照らし合わせた新教区設立手続きを進めるための施工規則草案の作成や教区事務所機能の整理などが始まっています。

財政的な準備として、財政一本化を目指し、教役者給与体系の整理・整備、財務諸表統一の思案が行われています。

このように、具体的準備作業を進めていく段階にきたことから、宣教協働特別委員会の体制も「これから」を考慮した体制へと移行しようとしています。これまでの4つの小委員会に加え、新たに

宣教小委員会、教務小委員会を設置し、財政小委員会と合わせた3つの小委員会を新教区設立「実務チーム」と位置づけ、より具体的な新教区設立準備作業にあたっていきます。また、宣教協働特別委員会のメンバーを両教区常置委員とし、情報共有と協議がより円滑に進むようにしていくことを目指しています。

2025年秋の定期教区会で、新教区設立のための議案が提出される予定です。その時に向けて、より深い出会いプログラムと、具体的な協議を積み上げていく協働が進められています。

### きょうどう川柳

戦いが終わることを願って

ガザミヤンマー 南スーダン ウクライナ

『きょうどう通信』へおたよりをお寄せください。宣教協働へのご意見・ご質問は下記メールアドレスまで。ご意見は「特別委員会」で共有しますが、掲載できませんが、ご了承ください。「秋」をテーマにした俳句・川柳もお待ちしております。俳号・匿名どちらでも可です。  
kouhou.k.t@gmail.com

『きょうどう通信』第15号

北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会

広報小委員会